

実践英語

基礎教育センター・教授
福島 富士男

1. 日本人教員実践英語IIabの授業評価について

2007年度後期実践英語の授業評価の報告を行うに当たって、前期に行った授業評価とは異なって、このアンケート調査対象が実践英語IIabであることを断っておきたい。

実践英語プログラムは以下のように構成されており、今回行った調査はIIabのクラスに当たる。なお、回答率90.5%と前期の回答率95.4%を下回ったのは、冬休み直後の授業日数が少なかったためと思われる。

1 年次

Iab (日本人授業、統一)	Icd (NSE 授業、統一)
Reading, Listening 統一テキスト、統一試験	Oral Communication (Role-Play, Presentation)統一 テキスト、統一試験
2年次	Iicd (NSE 授業、統一)
IIab (日本人授業、選択)	
三つのメニュー (Media, Reading, Comprehensive) から選択	Oral Communication (Role-Play, Debate) 統一テキスト、統一試験

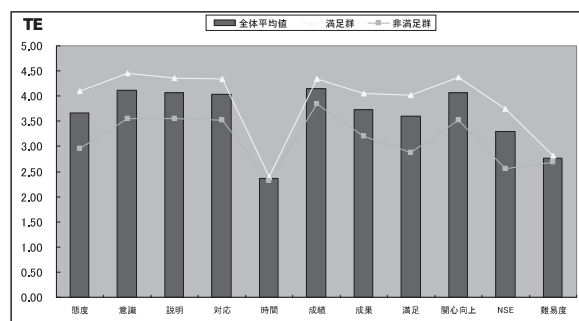
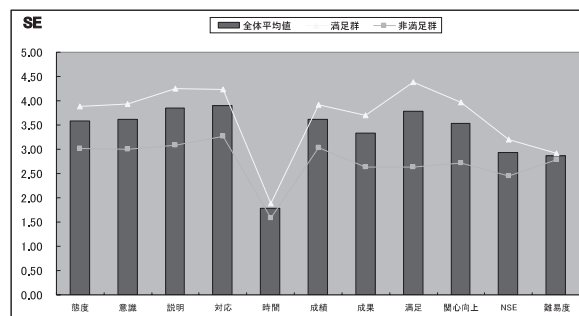
2. 2007年度実践英語授業IIabの概要

実践英語IIabは三つのカテゴリーを設け、さまざまなジャンルの英語を学べる機会を学生に提供している。学生は自分の受けたい授業を選択することができる。ただし、1クラス25人以下となっているので、場合によっては希望のクラスを選べないことがある。

今回の授業評価のグラフを以下に示してみる。

前回の授業評価アンケートと比べてみると、学生の満足度 (3.78) がかなり上がっている。しかも、教師の満足度 (3.60) よりも学生の満足度が高いという不思議なことが起きている。通常は逆で、教員の自己評価のほうが高い。(加藤光也「実践英語教育の現状について——第3回FDセミナー報告から」FDレポート第4号参照)。

つまり、グラフで見る限り、学生が実践英語IIabにかなりよい評価を与えているように思われる。



それでは、自由記述による回答を見てみよう。まず、自由記述での回答数がかなり多い。しかも「授業を改善してほしい」(94件)なのに対して、「この授業でよかった点」(209件)となっている。

具体的な回答例は割愛させていただくが、実践英語IIabに関して言えば、さまざまな教材・機器を使い、またさまざまな工夫を凝らして、教師が学生の勉学意欲を引き出している印象を持つ。と同時に専任教員と非常勤教員の担当コマ数(専任13コマ:非常勤55コマ)を考えると、非常勤教員の本学英語教育への貢献度は大きいと思われる。

3. NSE授業のアンケート調査について

NSE教員クラスのアンケート調査は業務委託先のベルリッツが独自に行っている。以下その報告である。

今回は、前回報告とは異なった質問形式のアンケート調査だった(前回については、福島富士男「実践英語」(クロスロード第6号参照)。このアンケートは、授業での具体的な作業に焦点を合わせたもので、以下のような質問項目で構成されている。日本語に訳してみる。

1. 教科書は適切でしたか。
2. 授業中の活動のなかで、どれが一番楽しかったですか。
 - a. ペア・ワーク
 - b. グループ・ワーク、
 - c. 単独ワーク
3. 教師の指示と声は容易に理解できましたか。
4. この授業はやりがいがありましたか。

簡単な質問項目だが、NSE授業が学生にどう受け止められているかを見るには、これで十分かもしれない。

以下に、1年生、2年生の順で、集計結果を示してみる。

1年生：

1. 教科書は適切でしたか。

難しすぎた4%、ちょうどよい75%、易すぎる21%
2. 授業中の活動のなかで、どれが一番楽しかったですか。

ロールプレイ33%、プレゼンテーション20%、リスニング26%
3. 以下の活動は役に立ちましたか
 - a. ペア・ワーク

大変役に立った42%、役に立った51%、あまり役に立たなかった%
 - b. グループ・ワーク

大変役に立った41%、役に立った47%、あまり役に立たなかった12%
 - c. 単独ワーク

大変役に立った21%、役に立った59%、あまり役に立たなかった20%
3. 教師の指示と声は容易に理解できましたか。

理解できる75%、ときどきむずかしい23%、むずかしい2%
4. この授業はやりがいがありましたか。

大変やりがいがある7%、やりがいがある71%、あまりやりがいがない22%

2年生：

1. 教科書のレベルは適切でしたか。

難しすぎた3%、ちょうどよい78%、易すぎる20%
2. 授業中の活動のなかで、どれが一番楽しかったですか。

ロールプレイ30%、プレゼンテーション16%、リスニング34%

3. 以下の活動は役に立ちましたか
 - a. ペア・ワーク

大変役に立った40%、役に立った52%、あまり役に立たなかった8%
 - b. グループ・ワーク

大変役に立った34%、役に立った50%、あまり役に立たなかった12%
 - c. 単独ワーク

大変役に立った18%、役に立った60%、あまり役に立たなかった22%
3. 教師の指示と声は容易に理解できましたか。

理解できる73%、ときどきむずかしい23%、むずかしい3%
4. この授業はやりがいがありましたか。

大変やりがいがある5%、やりがいがある71%、あまりやりがいがない24%

全体としてNSE授業が首都大の実践英語プログラムとして定着してきた印象を受ける。2年生よりも1年生のほうがより積極的に授業に参加しているように思われるのは、NSEの授業への戸惑いも少なくなったということだろう。また、昨年度まで多かった教科書に対する不満は大学側の編集協力で作成された新教科書によって解消されたと思われる。

来年度のNSE授業では、二つの点の改善を計画している。一つはオフィスアワーの時間帯を一部変更して、さらにもっと学生が利用しやすいようにすることである。もう一つは、4月当初の授業開始時にごく簡単な「英語フレーズ集」を配布して、学生が教師に英語で話しかけやすくすることである。

今年度は「はしか休講」もあり、統一授業をその根幹とする本学の実践英語プログラムは大きな影響を受けた。それでも、どうやら学生諸君は満足してくれたように思う。昨年10月にはじめての試みとして、英語教育分科会として英語教育に関して学生懇談会を開いた。非公式なものであったが、学生諸君の率直な意見を聞くことができた貴重な機会であった。今後も定期的にこうした会を開いて意見を聞き、多くの学生の声に応える英語授業をすすめていきたいと思う。